

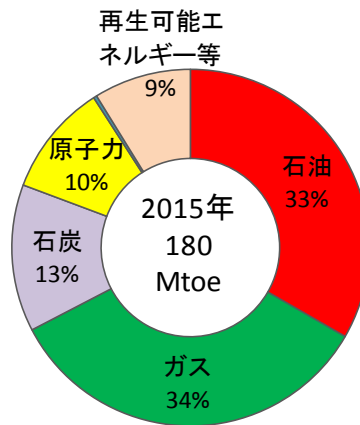
## 2-2 英国

### 1. サマリー

#### 1. エネルギー事情

- (1) 一次エネルギー供給量(2015年) : 180 百万 toe (日本の 0.41 倍)
- (2) 一人当たりの一次エネルギー供給量(2015年) : 2.77 toe (日本の 0.81 倍)
- (3) エネルギー自給率(2015年) : 65%
- (4) エネルギー起源 CO<sub>2</sub> 排出量(2014年) : 407.8 百万 CO<sub>2</sub> 換算 ton (日本の 0.34 倍)
- (5) 一人当たりエネルギー起源 CO<sub>2</sub> 排出量(2013年) : 6.31CO<sub>2</sub> 換算 ton (日本の 0.68 倍)
- (6) エネルギー源別可採年数(2015年末) : 原油 8.0 年、天然ガス 5.2 年、石炭 27 年

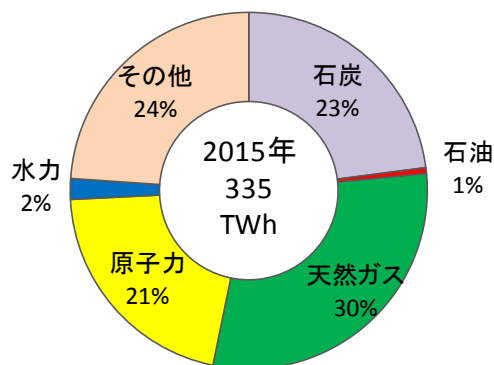
一次エネルギー供給構成 (2015年)



Country: United Kingdom

(出所) World Energy Balances 2016, IEA

発電電力量構成 (2015年)



Country: United Kingdom

(出所) World Energy Balances 2016, IEA

## 2. エネルギー政策のポイント

### (1) エネルギー政策担当機関

- 英国のエネルギー政策担当機関は、ビジネス・エネルギー・産業戦略省 (Department for Business, Energy & Industrial Strategy: BEIS) である。
- 2016年7月現在のBEIS大臣はGreg Clark氏 (閣内相 (Secretary of State)、2016年7月～) が務め、Nick Hurd氏 (気候変動・産業担当閣外相 (Minister of State)、2016年7月～)、Baroness Neville-Rolfe DBE CMG (エネルギー・知的財産担当閣外相 (Minister of State)、2016年7月～)、Jesse Norman氏 (政務次官 (Parliamentary Under Secretary of State)、2016年7月～) がエネルギー・気候変動関連について閣内相を補佐する。

### (2) 基本政策

- 英国のエネルギー・環境政策の長期的な課題は、以下の2つである。
  - 安定的でクリーン、かつ適正な価格のエネルギー供給の確保
  - 気候変動緩和のための国際協力の推進

### (3) 最近の動向

- 2016年5月、「エネルギー法 2016」が成立。同法では、石油・ガス機構 (OGA) に北海での開発を支援する新たな権限を与えること、陸上風力発電の計画に対して地元が発言権を与えること、また、新規陸上風力発電開発への再生可能エネルギー使用義務制度 (RO) 補助金を早期に終了させることが盛り込まれている。
- 2016年6月、EU脱退の是非を問う国民投票が実施され、離脱派 51.9%、残留派 48.1%と離脱派が僅差で過半数を超える結果となった。投票率は 72.2%であった。国民投票の結果を受け、Cameron 首相は辞任を発表。
- 2016年7月、Cameron 首相の後任に Theresa May 内相が就任。May 新首相は、エネルギー・気候変動省 (DECC) を廃止し、同時に廃止するビジネス・イノベーション・職業技能省 (BIS) の一部を DECC 業務と統合して「ビジネス・エネルギー・産業戦略省 (BEIS)」を新設した。BEIS 大臣には、Greg Clark 氏が就任。

## 3. 日本とのエネルギー分野における関係

- 2016年7月、日立製作所子会社の英国 Horizon Nuclear Power 社と、日本原子力発電、日立製作所は、Wylfa Newydd 建設計画の許認可段階における協力協定を締結。
- 2016年5月以降、JX 石油開発の英国法人 JX Nippon Exploration & Production 社は、低迷する油価の下、収益改善を図るためのポートフォリオ見直しと投資規模の最適化の一環として、北海鉦区のカス田・油田権益の一部を売却している。

## 2. 主要エネルギー指標

COUNTRY: United Kingdom

(2015年)

(1) 一次エネルギー供給量		180 Mtoe
(2) 一人当たりの一次エネルギー供給		2.77 toe/人
(3) GDP当たりの一次エネルギー供給		0.07 toe/千ドル
(4) エネルギー自給率		65 %
(5) エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量(2014年)		407.8 百万CO <sub>2</sub> 換算ton
(6) 一人当たりエネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量(2014年)		6.31 CO <sub>2</sub> 換算ton/人
(7) エネルギー源別構成率	石炭	13 %
	石油	33 %
	天然ガス	34 %
	原子力	10 %
	水力	0 %
	再生可能エネルギー等	9 %
(8) エネルギーの輸入依存度		35 %
(9) 石油の輸入依存度		21 %
(10) 輸入原油の中東依存度		4.1 %
(11) 原油の輸入先	第1位	ノルウェー
	第2位	アルジェリア
	第3位	ナイジェリア

(出所) (1)～(4)および(7)～(9) : World Energy Balances 2016, IEA

(5)～(6) : CO<sub>2</sub> Emissions from Fuel Combustion 2016, IEA

(10)～(11) : Oil Information 2016, IEA